

浜松市議会政務活動研究会会議録

1 開催日時

令和8年3月23日（月）午前11時30分開議

2 開催場所

市議会第2委員会室

3 会議に付した案件

- 1 海外視察に伴う報告について（自由民主党浜松）
- 2 その他

4 出席状況

○出席委員（10人）

議長（座長）	高林修	副議長	松本康夫
委員	鈴木裕之	委員	久米丈二
委員	齋藤和志	委員	鈴木真人
委員	黒田豊	委員	森田賢児
委員	酒井豊実	委員	鈴木恵

○欠席委員（1人）

委員 馬塚彩矢香

○議会事務局職員の職氏名

議会事務局長	新谷直幸	議会事務局次長 (議会総務課長)	清野訓子
議事課長	前嶋卓志	調査法制課長	青葉陽亮
議会総務課長補佐	藤村顕栄	議会総務課副主幹 (議会総務グループ長)	中村裕香
議会総務課主任 (担当書記)	本門加代子		

会 議

11:00

○高林修議長(座長) ただいまから、第2回政務活動研究会を開会します。
馬塚彩矢香委員から欠席の報告がありましたのでご承知おきください。
市政記者の傍聴についてお諮りをします。許可することよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高林修議長(座長) それでは、市政記者の傍聴については、許可することといたします。
一般傍聴人の傍聴についてお諮りをいたします。申し出があれば許可することよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高林修議長(座長) それでは、申し出があれば許可することといたします。
これより協議事項に入りますが、海外視察に伴う事後報告については、インターネット中継をしますので、御承知おきください。

1 海外視察に伴う報告について(自由民主党浜松)

◎結論 自由民主党浜松より海外視察についての報告がありました。

◎発言内容

○高林修議長(座長) それでは、1の「海外視察に伴う報告について」自由民主党浜松から説明をお願いします。

○小野田康弘議員 1月12日から1月16日に行きましたインド、マレーシア及びシンガポールの視察報告をします。

1月13日と1月14日にインドのグジャラート州アーメダバード市にて、1月15日にマレーシアとシンガポールにて視察を行いました。1月12日と1月16日は移動行程のため視察はしていません。

まず、1月13日のジェトロアーメダバード事務所の視察について説明します。ジェトロつまり日本貿易振興機構は、グジャラート州の主要都市であるアーメダバード市に事務所を開設し、日本企業の支援を行っています。

グジャラート州は人口約7,000万人のインドの主要経済都市の一つで、ユネスコ世界遺産に登録されている歴史的な市街地がある非常に文化的に豊かな町です。日本企業の進出も多岐にわたり、約360社が進出していますが、駐在員は250名から300名程度であり、そんなに多くありません。大体60社から70社ぐらいが駐在、その他の企業は出張ベースで日本とインドを行き来しているということです。産業は、国家レベルの補助金制度を背景に半導体関連産業が非常に伸びています。また、インドの中でもエネルギー分野に長けており、再生可能エネルギーが発電総容量の約50%を占め、グリーン水素の試験製造が開始されるなど非常に先進的な地域です。

グジャラート州は人口が多いため労働者も非常に豊富ですが、ホワイトカラーとブルーカラーの区分でいうホワイトカラーの働き方が課題となっているそうです。インドでは通常週6日勤務ですが、ホワイトカラーは週5日勤務の働き方を好むため、日本企業がインド人管理職を獲得することが非常に難しいということでした。

グジャラート州アーメダバード市は、浜松市だけでなく神戸市とも連携協定を結んでいますが、神戸市とは現在あまり行き来がないそうです。都市間交流だけでなく、マッチングする企業があるかということが非常に大切で、そのマッチングがうまくいくかどうか企業が進出にとって非常に重要であるということでした。

今回、アーメダバード市の企業進出の状況を詳細に聞くことができ、非常に実のある視察になりました。今後、浜松市がインド進出を見据える上でアーメダバード市は非常に重要な都市であると感じました。

次に、アーメダバード経営者協会について説明します。アーメダバード経営者協会は、地域の経営者及び産業界の発展促進を目的とした団体で、浜松市との文化交流の接点となっています。今回の音楽フェスティバルは、ヤマハ株式会社が主催し、アーメダバード経営者協会において1月10日から1月14日までパネル展示やワークショップ、音楽コンサートなどが開催されました。

訪問した1月13日は音楽コンサートが開かれ、カイトフェスティバルに参加する浜松まつりの関係者と一緒に参加しました。音楽コンサートでは、現地の方が舞踊や音楽など様々な催しで出迎えてくださり、浜松市まつり関係者も激練りを披露し、文化交流の第一歩を示しました。また、会場では現地の学生を中心にカイトフェスティバルのパネルを展示していました。浜松市の歴史や浜松市との関連性が分かるパネル、そして現地のカイトが紹介されていました。

コンサートでは地元の児童や音楽愛好家が舞台に立ち、様々な演奏をしていました。非常に活気のある音楽コンサートで、会場を埋め尽くすほど地元の方が参加されており、良い音楽フェスティバルでした。

カイトフェスティバルですが、今回、インターナショナルカイトフェスティバルという歴史のあるフェスティバルで浜松まつりの6帖凧を揚げるため、アーメダバード市の要請により浜松まつり関係者が参加していました。しかし、風が無く、たこが空にとどまることができず、浜松まつり関係者は何回もたこを揚げていました。そういった状況で、現地の方も関心を持って見ており、「このたこは何でできているのか、紙でできているのか、どのくらい高く揚がるのか」など、いろいろな質問を受けながら現地の市民と交流しました。浜松まつりのたこ揚げが浜松市とアーメダバード市の交流のきっかけになればと感じる浜松まつりのたこ揚げでした。

インドの一般市民は、30センチ四方の菱形のたこを揚げていました。驚いたことは、路上や屋根、屋上など様々な場所からたこを揚げており、どこに行っても見渡す限りたこだらけだったことです。浜松まつりとの違いは、浜松まつりはそれぞれの町が揚げるたこ、

インドは個人が揚げるたことということです。ただ一つ共通するのは、糸切り合戦をすることです。インドのたこのたこ糸には少しガラス繊維を編み込ませてあるそうです。そのため、路上にはたこが多数落ちている状況も見受けられました。

浜松まつり関係者も現地の住民とコミュニケーションを取っており、非常に良いイベントでした。これを機に、両国の人材交流、特に文化交流ができればと願っています。

カイトフェスティバルの後、午後からアーメダバード市の旧市街地を視察しました。この旧市街地は世界遺産に登録されており、多様な宗教制度が共存する都市空間が注目されています。ヒンドゥー教の寺院やイスラム教のモスク、ジャイナ教寺院などが代表的な例として挙げられますが、都市の歴史的多層性及び文化的多元性を示す重要な要素が含まれており、約 60 万人の住民が住んでいます。

旧市街地は、大通りから一旦路地に入ると、狭隘な道路が四方八方に巡らされ、そのような非常に狭い空間の中で屋台などが出ており、非常に活気のある町でした。また、ポルという伝統的な建築の集合住宅が多いのですが、2001 年のインド西部地震で大きな被害を受けた後もいまだに修復されずに残っている建物が多く見受けられました。インドは貧富の差が激しいため、改修までに至らずそのまま放置されているという状況でした。世界遺産でそのように放置されてよいのかとも思いましたが、そこで暮らす市民の状況を考えて、仕方がないのかとの思いもあります。旧市街地全体で世界遺産登録をしているため、寺院などはしっかり整備されて入場料も取って保全がうまくできており、観光資源としての活力も維持されていると感じました。

次に、マレーシア・ジョホール日本人学校について説明します。マレーシア・ジョホール日本人学校は、1997 年に開校した私設の日本人学校です。中の施設を全て見ましたが、約 30 年近くたっているため、かなり老朽化が進んでいました。学校長の話では、修繕は建物オーナーとの協議が必要で国からの補助がなく、自分たちで直さないといけないということでした。海外に出ていく日本人の子供の教育環境の改善のため、このような老朽化が進んでいる日本人学校には国からの援助を考えていくことが重要な課題であると感じました。

ジョホール日本人学校の校長は意欲的に経営しており、海外でも安心して教育活動ができる体制をつくるため、来年度から発達支援学級をつくると意思を表明していました。

また、日本人学校とインターナショナルスクールの競争においては、日本人学校の魅力をどのように創っていくかも課題だと話がありました。この学校は、地元の学校との交流を特色としており、また、マレーシアへ進出している日本企業への職場見学や職場体験を通じてキャリア教育を進めています。さらに、英語の学力向上についても、通常のカリキュラム以外に英会話教育を実施しています。

これから本市でもグローバル教育を目指し魅力ある教育をするのであれば、海外日本人学校での海外教員経験も大切ではないかと感じました。

最後に、ヤマハミュージックアジアについて説明します。ここは、ヤマハ株式会社の音

楽教室を経営しており、楽器の販売と共にアジアに向けた事業の重要な拠点となっており、非常に早い時期からシンガポールに進出しており、50年以上の歴史を持っています。ヤマハの音楽教室も非常に人気があり、講師もシンガポールだけではなく、マレーシアやインドネシア出身の方も多く在籍しているそうです。大体4歳から6歳ぐらいから始め、7歳で小学校に上がる時に辞めてしまう方も多そうです。シンガポールは物価が高く、授業料は日本の約2倍ですが、それでも他の音楽教室と比べると一番安い方だそうです。過当競争で非常に苦勞しており、集団レッスンから個人レッスンに移すなど、工夫している現状が見受けられました。佐々貴社長からは、どのように魅力ある音楽教室にしていくかが難しいとのことでした。また、本社が浜松市にあるため、都市間交流という形で音楽文化の連携をしていくとよいのではないかと話がありました。

今回、実質3日間で視察をしましたが、濃密な視察ができたので非常によかったです。

以上で報告を終わります。

○高林修議長(座長) 自由民主党浜松からの説明は終わりました。それでは質疑、意見があればお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。

(発言なし)

それでは以上で海外視察に伴う報告を終わります。

なお会議録は議会ホームページで公開します。また海外視察報告書についても議会ホームページで公開するとともに、議会事務局の受付カウンターにも配架し、希望者が閲覧できるようにしますので、よろしく申し上げます。

それでは委員の皆様はそのままお残りいただき、それ以外の方はご退席をお願いいたします。

11:56